

2011年12月27日

首都直下地震を想定した総合震災訓練を実施

－ シナリオを事前に明かさないブラインド訓練 －

戸田建設(株) (代表取締役社長：井上舜三) は、12月17日(土) に事業継続計画 (BCP) に基づく総合震災訓練を実施しました。朝7時30分に首都直下地震 (マグニチュード7.3の東京湾北部地震) が発生したと想定し、本社及び関東地域に事業拠点を置く5支店 (東京、千葉、関東、横浜、国際支店)、関係会社、協力会社を含む総勢約11,000名が参加して行いました。

当社では、2006年7月に大規模地震災害におけるBCPを策定し、総合震災訓練を通じて、実効性の検証にあたってきました。第7回目となる今回の訓練では東日本大震災での経験を踏まえ、実災害への対応力の向上を目的に、シナリオを事前に明かさないブラインド訓練を取り入れ、地震発生後48時間以内における役職員の行動及び対応を確認しました。

1. 社員安否確認の実施

今回の訓練より、社員安否に加え、その家族の安否確認も仕組みに取り入れました。

また、ブラインド訓練として安否の確認がとれていない社員に対する自宅への現地踏査を実施しました。

2. 社有施設・近隣家屋の被災調査の実施

被災調査要員による災害時参集拠点地 (一次拠点地) における施設 (9カ所) 及び本社社屋近隣家屋に対する応急危険度判定調査を実施しました。さらに、ブラインド訓練として被災想定施設を指定し、応急措置等への対応訓練を実施しました。

3. 情報システムの活用

当社にて構築した災害復旧支援システム『TIP-DR』『DR-Map』を活用して、効率的な情報集約、応急復旧措置の検討などの訓練を実施しました。さらに今回はシステム改良を実施し、営業部門と施工部門との連携を効率的に実施する仕組みを取り入れました。

TIP-DR：地震発生と同時に、被災可能性のある竣工物件及び作業所を自動的にリストアップし、その被災状況、対応状況を一元管理、共有化することができます。

DR-Map：当社作業所など災害時の拠点情報 (人員、資機材等) を地図上で把握することで、被災した竣工物件、作業所への支援を迅速に実施できます。

4. 作業所、竣工物件に対する応急復旧活動

ブラインド訓練として被災想定作業所 (二次災害の可能性のある作業所)、救援要請物件 (お客さまより、当社災害対策本部に対して救援要請があった竣工物件) を指定し、支援作業所及び協

力会社と連携して、作業指示及び人員派遣等の訓練を実施しました。また、全作業所において避難場所及び避難経路の確認等の訓練を実施し、当社社員や協力会社作業員の防災意識の向上を図りました。

当社では、今回の訓練の対象となった5支店以外の全国支店においても、同様の訓練を別途実施しています。また、訓練において明らかになった課題については、今後の取り組みに反映し、全社・グループをあげて、お客さまの事業継続に貢献していきます。

※ 過去の総合震災訓練

- 第1回 … 実施日：2006年12月2日、対象：本社、東京・千葉・関東・横浜支店
- 第2回 … 実施日：2007年12月1日、対象：本社、名古屋・大阪・広島支店
- 第3回 … 実施日：2008年9月8日、対象：本社、札幌・東北・四国・九州支店
- 第4回 … 実施日：2009年2月21日、対象：本社、東京・千葉・関東・横浜支店
- 第5回 … 実施日：2009年12月5日、対象：本社、東京・千葉・関東・横浜・国際支店
- 第6回 … 実施日：2010年12月11日、対象：本社、東京・千葉・関東・横浜・国際支店
- 第7回 … 実施日：2011年12月17日、対象：本社、東京・千葉・関東・横浜・国際支店

【訓練の様子】



災害対策統括本部



被災調査要員（社有施設被災調査訓練）

以上